

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 07-271562

(43)Date of publication of application : 20.10.1995

(51)Int.Cl.

G06F 9/06

(21)Application number : 06-065139

(71)Applicant : TOSHIBA CORP

(22)Date of filing : 01.04.1994

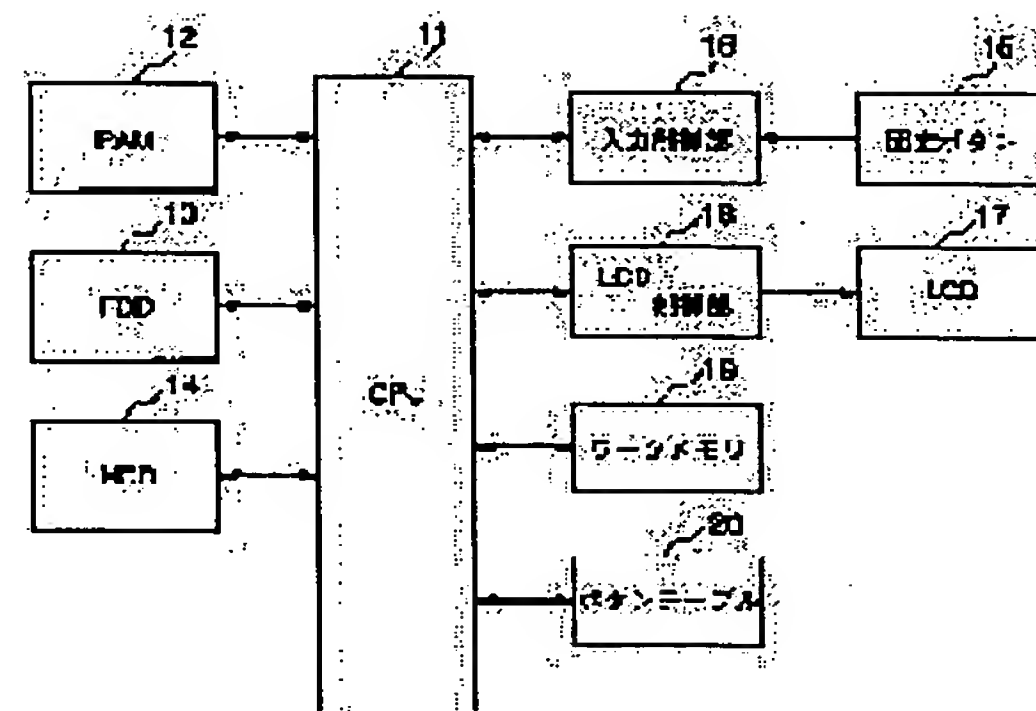
(72)Inventor : TAMIYA MASAHIKO

(54) DATA PROCESSOR AND APPLICATION SOFTWARE ACTIVATION METHOD

(57)Abstract:

PURPOSE: To provide a data processor and an application software activation method capable of promptly activating an application software with a simple operation.

CONSTITUTION: A fixed button 15 for instructing a certain function is set in a button table 20 as an application activation button. When the fixed button 15 is operated, a CPU 11 recognizes the fixed button 15 as the application activation button based on the button table 20, copies the application software registered in a RAM 12 to a work memory 19 and activates it. Thus, without going through stepwise operations, the application software is activated through one action.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

22.03.2000

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

18.03.2003

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平7-271562

(43)公開日 平成7年(1995)10月20日

(51)Int.Cl.⁶

G 0 6 F 9/06

識別記号

4 1 0 S

庁内整理番号

7230-5B

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 8 O L (全 7 頁)

(21)出願番号

特願平6-65139

(22)出願日

平成6年(1994)4月1日

(71)出願人 000003078

株式会社東芝

神奈川県川崎市幸区堀川町72番地

(72)発明者 田宮 昌彦

東京都青梅市末広町2丁目9番地 株式会

社東芝青梅工場内

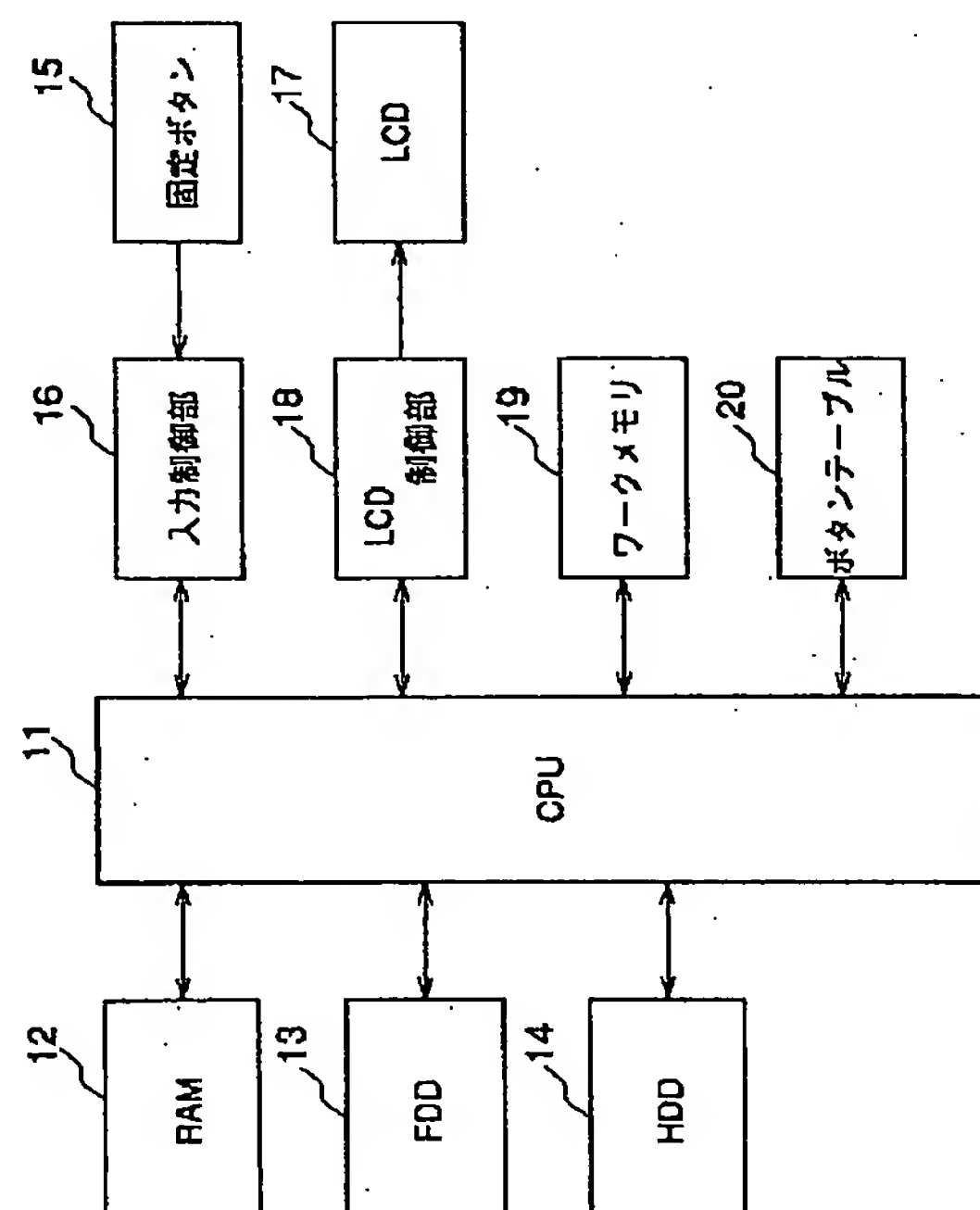
(74)代理人 弁理士 鈴江 武彦

(54)【発明の名称】 データ処理装置及びアプリケーションソフト起動方法

(57)【要約】

【目的】アプリケーションソフトを簡単な操作で速やかに起動できるデータ処理装置及びアプリケーションソフト起動方法を提供することを目的とする。

【構成】ある機能を指示する固定ボタン15をアプリ起動ボタンとしてボタンテーブル20に設定しておく。固定ボタン15が操作されたとき、CPU11はボタンテーブル20に基づいてその固定ボタン15をアプリ起動ボタンとして認識し、RAM12に登録されたアプリケーションソフトをワークメモリ19にコピーして起動する。これにより、段階的な操作を踏まなくとも、ワンタッチでアプリケーションソフトを起動することができる。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】 アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、

上記アプリケーションソフトを起動するための固定ボタンと、

この固定ボタンが操作されたとき、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段とを具備したことを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 2】 複数の機能を有したデータ処理装置において、

アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、

上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、

この各固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定するアプリ起動ボタン設定手段と、

このアプリ起動ボタン設定手段によって上記アプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段とを具備したことを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 3】 上記アプリ起動ボタン設定手段は、上記各固定ボタンの中で任意に指定された固定ボタンを上記アプリ起動ボタンとして設定することを特徴とする請求項 2 記載のデータ処理装置。

【請求項 4】 上記アプリ起動ボタン設定手段は、上記各固定ボタンの中で上記アプリケーションソフトによって指定される固定ボタンを上記アプリ起動ボタンとして設定することを特徴とする請求項 2 記載のデータ処理装置。

【請求項 5】 複数の機能を有したデータ処理装置において、

アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、

この各固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定するアプリ起動ボタン設定手段と、

このアプリ起動ボタン設定手段によって上記アプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたとき、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されている否かを判断し、登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、未登録であれば上記各機能のうちの上記固定ボタンに対応する機能を実行することを特徴とするデータ処理装置。

【請求項 6】 アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段を備えたデータ処理装置のアプリケーションソフト起動方法において、

上記アプリケーションソフトを起動するための固定ボタ

ンが操作されたとき、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動するようにしたことを特徴とするアプリケーションソフト起動方法。

【請求項 7】 複数の機能を有し、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段を備えたデータ処理装置のアプリケーションソフト起動方法において、

上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定し、

10 このアプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたことを判断し、

上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動するようにしたことを特徴とするアプリケーションソフト起動方法。

【請求項 8】 複数の機能を有し、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段を備えたデータ処理装置のアプリケーションソフト起動方法において、

上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定し、

20 このアプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたとき、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されている否かを判断し、

登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、

未登録であれば上記各機能のうちの上記固定ボタンに対応する機能を実行するようにしたことを特徴とするアプリケーションソフト起動方法。

【発明の詳細な説明】

30 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、例えばパーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ等のデータ処理装置に係り、特に携帯型の個人情報機器として用いられ、各種のアプリケーションソフトを実行可能なデータ処理装置と、そのアプリケーションソフトの起動方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来、パーソナルコンピュータ、ワードプロセッサ等のデータ処理装置では、内蔵された機能の他に、アプリケーションソフトを用いて、例えばゲー

40 ム、データ管理、表計算といった特定の機能を実行することができる。

【0003】ところで、このようなアプリケーションソフトを起動する場合には、次のような段階的な操作が必要であった。

1. 現在実行中の機能を中止し、
2. アプリケーションソフト起動用の設定画面を表示し、
3. その設定画面において、アプリ起動方法を選択する。

50 【0004】上記アプリ起動方法としては、(a) FD

(フロッピーディスク)等の外部メモリからアプリケーションソフトを起動する方法、(b)外部メモリから本体メモリにアプリケーションソフトを登録してから起動する方法、(c)本体メモリに登録されているアプリケーションソフトを起動する方法がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】携帯型の個人情報機器として用いられデータ処理装置では、その操作性が追及されることから、アプリケーションソフトの起動にあっても、簡単な操作が求められる。しかしながら、従来の情報処理装置では、例えば本体メモリにアプリケーションソフトが登録されていて、それを読み出すだけで起動できる状態にあったとしても、上述したような段階的な操作を踏んでアプリ起動方法を選択しなければ起動できない。このため、操作が面倒であるだけでなく、アプリ起動までに時間を要するなどの問題があった。

【0006】本発明は上記のような点に鑑みなされたもので、アプリケーションソフトを簡単な操作で速やかに起動できるデータ処理装置及びアプリケーションソフト起動方法を提供することを目的とする。

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明のデータ処理装置は、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記アプリケーションソフトを起動するための固定ボタンと、この固定ボタンが操作されたとき、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段とを具備したものである。

【0008】また、本発明のデータ処理装置は、複数の機能を有したデータ処理装置において、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、この各固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定するアプリ起動ボタン設定手段と、このアプリ起動ボタン設定手段によって上記アプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段とを具備したものである。

【0009】また、本発明のデータ処理装置は、複数の機能を有したデータ処理装置において、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、この各固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンを設定するアプリ起動ボタン設定手段と、このアプリ起動ボタン設定手段によって上記アプリ起動ボタンとして設定された上記固定ボタンが操作されたとき、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されている否かを判断し、登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、未登録であれば上記各機能のうちの上記固

定ボタンに対応する機能を実行することを特徴とする。

【0010】

【作用】上記の構成によれば、固定ボタンが操作されたとき、例えば本体メモリあるいは外部メモリからアプリケーションソフトが読み出される。したがって、段階的な操作を踏まなくとも、ワンタッチでアプリケーションソフトを起動することができる。

【0011】また、各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンを備えたデータ処理装置において、各固定ボタンの中からアプリ起動ボタンとして使用する固定ボタンを設定すると、当該固定ボタンが操作されたとき、例えば本体メモリあるいは外部メモリからアプリケーションソフトが読み出される。これにより、例えば使用頻度の低い機能の固定ボタンをアプリ起動用ボタンとして使用するなど、既存の固定ボタンを利用してアプリケーションソフトを起動することができる。

【0012】また、各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンを備えたデータ処理装置において、アプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたとき、アプリケーションソフトが例えば本体メモリあるいは外部メモリに登録済みであれば上記アプリケーションソフトが起動され、未登録であれば上記各機能のうちの上記固定ボタンに対応する機能が起動される。したがって、アプリケーションソフトが未登録であれば、固定ボタンによって指示される本来の機能を禁止することなく、通常通り実行することができる。

【0013】

【実施例】以下、図面を参照して本発明の実施例を説明する。

(第1の実施例)図1は携帯型の個人情報機器として用いられるデータ処理装置の要部の構成を示すブロック図である。本装置は、CPU11、RAM12、フロッピーディスク装置(以下、FDDと称す)13、ハードディスク装置(以下、HDDと称す)、固定ボタン15、入力制御部16、液晶表示装置(以下、LCDと称す)17およびLCD制御部18を有する。

【0014】CPU11は、本装置全体の制御を行うものであり、ここではアプリケーションソフトの起動制御を行う。RAM12、FDD13およびHDD14は、アプリケーションソフト記憶用メモリとして用いられるものであり、このうち、RAM12は本体メモリ、FDD13およびHDD14は外部メモリとしてアプリケーションソフトを記憶する。

【0015】固定ボタン15は、本装置内機能の実行を指示するための入力装置であり、図2に示すように、各機能に対応して複数の固定ボタン15a、15b、15c…からなる。入力制御部16は、固定ボタン15を通じて入力される機能指示信号の入力制御を行う。LCD17は、各種のデータを表示するための表示装置である。LCD制御部18は、LCD17にデータを表示す

るための表示制御を行う。

【0016】また、本装置は、ワークメモリ19およびボタンテーブル20を有する。ワークメモリ19は、アプリケーションソフト実行エリアとして用いられるメモリである。ボタンテーブル20は、各機能の固定ボタン15a, 15b, 15c…の中でアプリケーションソフト起動用として設定された固定ボタンがどのボタンであるのかを示す情報が記憶されるメモリである。

【0017】図2は本装置の表示画面を示す図である。本装置では、LCD17の上に図示せぬ感圧式タブレットを重ねて一体型の入出力装置を構成しており、入力操作のペンを使用する。この表示画面の上部は例えばワードプロセッサの文書やパーソナルコンピュータのデータを表示するための表示エリア31として用いられ、下部は固定ボタン15a, 15b, 15c…を操作するための入力エリア32として用いられる。固定ボタン15a, 15b, 15c…は、本装置に内蔵されている各機能（例えばカレンダー機能、スケジュール機能、チェックリスト機能、アドレス機能、メモ機能、ツール機能、ワープロ機能、DOSビューア機能、表紙機能、ペン機能等）の実行をそれぞれ指示するためのハードウェアボタンである。

【0018】次に、第1の実施例の動作を説明する。ここでは、使用頻度の最も低い機能である表紙機能を指示する固定ボタンをアプリ起動ボタンとして用いる場合について説明する。

【0019】図3は第1の実施例に係るアプリ起動制御処理の動作を示すフローチャートである。予めボタンテーブル20には、表紙機能を指示する固定ボタン15がアプリ起動ボタンであることを示す情報が格納されている。この状態で、固定ボタン15が押下されると（ステップA1）、CPU11はその固定ボタン15が表紙ボタンであるか否かを判断し、表紙ボタンでなければ（ステップA2のNo）、当該固定ボタン15によって指示される機能（表紙機能以外）の処理動作を実行する。

【0020】一方、表紙ボタンであった場合（ステップA2のYes）、CPU11は、まず、本体メモリであるRAM12をアクセスし、そこにアプリケーションソフトが登録されているか否かを調べる（ステップA3）。その結果、アプリケーションソフトが未登録であれば（ステップA3のNo）、CPU11は当該固定ボタン15によって指示される本来の機能、つまり、表紙機能を実行する（ステップA5）。これにより、LCD17には、図4（a）に示すように表紙が表示される。

【0021】また、アプリケーションソフトがRAM12に登録されている場合（ステップA3のYes）、CPU11は当該固定ボタン15をボタンテーブル20によりアプリ起動ボタンとして認識し、RAM12に登録されているアプリケーションソフトをワークメモリ19

にコピーして（ステップA6）、そのアプリケーションソフトを起動する（ステップA7）。これにより、LCD17には、図4（b）に示すようにアプリケーション画面が表示される。

【0022】このように、本体メモリにアプリケーションソフトが登録されていれば、アプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンを操作するだけで、そのアプリケーションソフトを簡単に起動することができる。言い換えれば、従来のような段階的な操作を必要とせずに、ワンタッチでアプリケーションソフトを速やかに起動することができ、操作性の向上を図ることができる。

【0023】また、複数の固定ボタンの中で使用頻度の最も低い機能（表紙機能）の固定ボタンをアプリ起動ボタンとして用いているため、アプリ起動用として新たなボタンを設ける必要がない。

【0024】（第2の実施例）次に、本発明の第2の実施例を説明する。上記第1の実施例では、アプリ起動ボタンが予め設定されていたが、ここではユーザがアプリ起動ボタンを任意に指定する場合について説明する。

【0025】図5は第2の実施例に係るボタン設定処理の動作を示すフローチャートである。特定の操作により、ボタン設定を指示すると、図6に示すような設定画面がLCD17に表示される（ステップB1）。この設定画面において、複数の固定ボタン15の中からアプリ起動ボタンとして用いたいボタンをペックリック等により指定する（ステップB2）。これにより、CPU11は指定された固定ボタン15をアプリ起動ボタンとしてボタンテーブル20に登録する（ステップB3）。

【0026】図7は第2の実施例に係るアプリ起動制御処理の動作を示すフローチャートである。ボタンテーブル20にアプリ起動ボタンが設定されている状態で、固定ボタン15を押下すると（ステップC1）、CPU11はボタンテーブル20を参照して（ステップC2）、その固定ボタン15がアプリ起動ボタンとして設定されたボタンか否かを判断する（ステップC3）。その結果、アプリ起動ボタンでなければ（ステップC3のNo）、CPU11は当該固定ボタン15によって指示される本来の機能の処理動作を実行する（ステップC5）。

【0027】アプリ起動ボタンであった場合（ステップC3のYes）、CPU11は本体メモリであるRAM12をアクセスし、そこにアプリケーションソフトが登録されているか否かを調べる（ステップC4）。その結果、アプリケーションソフトがRAM12に登録されていないければ（ステップC4のNo）、CPU11は当該固定ボタン15によって指示される本来の機能を実行する（ステップC5）。

【0028】一方、アプリケーションソフトがRAM12に登録されている場合（ステップC4のYes）、CPU11は当該固定ボタン15をアプリ起動ボタンとし

て認識し、RAM 1 2 に登録されているアプリケーションソフトをワークメモリ 1 9 にコピーして（ステップ C 6）、そのアプリケーションソフトを起動する（ステップ C 7）。

【0029】このように、アプリ起動ボタンを任意に指定することでも、その指定された固定ボタンを通じてアプリケーションソフトを簡単に起動することができる。この場合、アプリ起動ボタンを任意に指定できることから、複数の固定ボタンの中でユーザが全く必要としない機能のボタンがあれば、それを割り当てることで、操作性をさらに向上させることができる。

【0030】（第 3 の実施例）次に、本発明の第 3 の実施例を説明する。上記第 2 の実施例では、ユーザがアプリ起動ボタンを任意に指定したが、ここでは、アプリケーションソフトがアプリ起動ボタンを指定する場合について説明する。

【0031】本装置の内部機能に対応したアプリケーションソフトを用いる場合において、そのアプリケーションソフトの起動ボタンとして、当該内部機能を指示する固定ボタンを使用する。すなわち、例えば本装置にスケジュール機能が内蔵されていたとすると、そのスケジュール機能はスケジュールボタンで実行される。ここで、今のスケジュール機能をバージョンアップしたアプリケーションソフトを用いる場合には、既にあるスケジュール機能のソフトは必要ないため、スケジュールボタンが操作されたとき、そのスケジュールボタンをアプリ起動ボタンとして使用する。これにより、アプリケーションソフトを起動して、バージョンアップしたスケジュール機能を実行できる。

【0032】図 8 は第 3 の実施例に係るボタン設定処理の動作を示すフローチャートである。あるアプリケーションソフトを本体メモリである RAM 1 2 に登録したとき（ステップ D 1）、CPU 1 1 はそのアプリケーションソフトによって固定ボタン 1 5 が指定されているかどうかを判断する（ステップ D 2）。

【0033】ここで、当該アプリケーションソフトが本装置内の機能に対応するものである場合には、その機能の固定ボタン 1 5 が当該アプリケーションソフトの固定ボタン 1 5 になるため、CPU 1 1 はアプリケーションソフトによって固定ボタン 1 5 が指定されているものと判断し（ステップ D 2 の Yes）、その指定された固定ボタン 1 5 をアプリ起動ボタンとしてボタンテーブル 2 0 に登録する（ステップ D 3）。

【0034】以後の処理は上記第 2 の実施例と同様である。すなわち、上記のようにしてボタンテーブル 2 0 にアプリ起動ボタンが設定された後、固定ボタン 1 5 が押下されると、操作ボタンテーブル 2 0 に基づいて、その固定ボタン 1 5 がアプリ起動ボタンであるか否かが診断される。その結果、アプリ起動ボタンである場合に、本体メモリに登録されているアプリケーションソ

フトが起動される（図 7 参照）。

【0035】このように、本装置の内部機能に対応するアプリケーションソフトを使用する場合には、そのアプリケーションソフトからアプリ起動ボタンを指定することができ、そのアプリ起動ボタンとして指定された固定ボタンを通じて簡単にアプリケーションソフトを起動することができる。

【0036】なお、上記各実施例では、本体メモリにアプリケーションソフトが登録されていることを前提として説明したが、本発明はこれに限るものではなく、図 1 に示す FDD 1 3 や HDD 1 4 のような外部メモリにアプリケーションソフトが存在する場合であっても、上記同様の手法にて、そのアプリケーションソフトをワンタッチで起動することができる。

【0037】また、アプリケーションソフトを起動するに当たり、（a）FD（フロッピーディスク）等の外部メモリからアプリケーションソフトを起動する方法、（b）外部メモリから本体メモリにアプリケーションソフトを登録してから起動する方法、（c）本体メモリに登録されているアプリケーションソフトを起動する方法といったように何通りか方法があるが、これらの方法に対応させて固定ボタン 1 5 を複数設定しておけば、例えば（a）の起動方法でアプリを起動する場合には固定ボタン 1 5 a、（b）の起動方法でアプリを起動する場合には固定ボタン 1 5 b を使用するというように、アプリ起動方法に応じて固定ボタンを使い分けることもできる。

【0038】

【発明の効果】アプリケーションソフトを起動するに当たって何通りかの方法があり、従来はそのアプリ起動方法を段階的な操作により選択しなければならなかったが、本発明によれば、そのような段階的な操作を必要とせず、ワンタッチでアプリケーションソフトを所定の起動方法に従って起動することができる。これにより、携帯型の個人情報機器において、アプリ起動に係る操作性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の第 1 の実施例に係るデータ処理装置の構成を示すブロック図。

【図 2】上記データ処理装置の表示画面の構成を示す図。

【図 3】上記第 1 の実施例に係るアプリ起動制御処理の動作を示すフローチャート。

【図 4】上記アプリ起動制御処理時に表示されるアプリ未登録画面とアプリ登録画面を示す図。

【図 5】本発明の第 2 の実施例に係るボタン設定処理の動作を示すフローチャート。

【図 6】上記ボタン設定処理時に表示される設定画面を示す図。

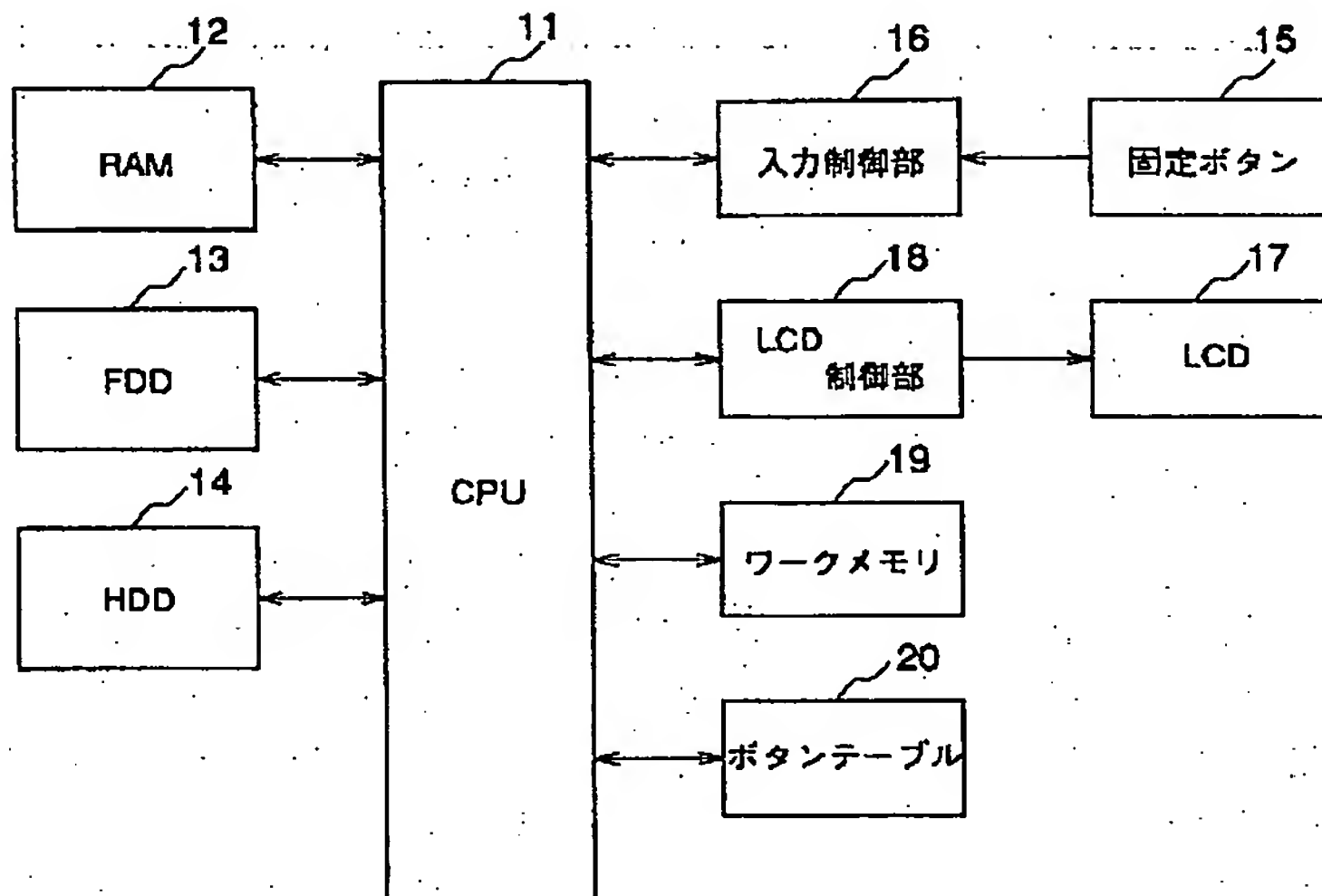
【図 7】上記第 2 の実施例に係るアプリ起動制御処理の

動作を示すフローチャート。

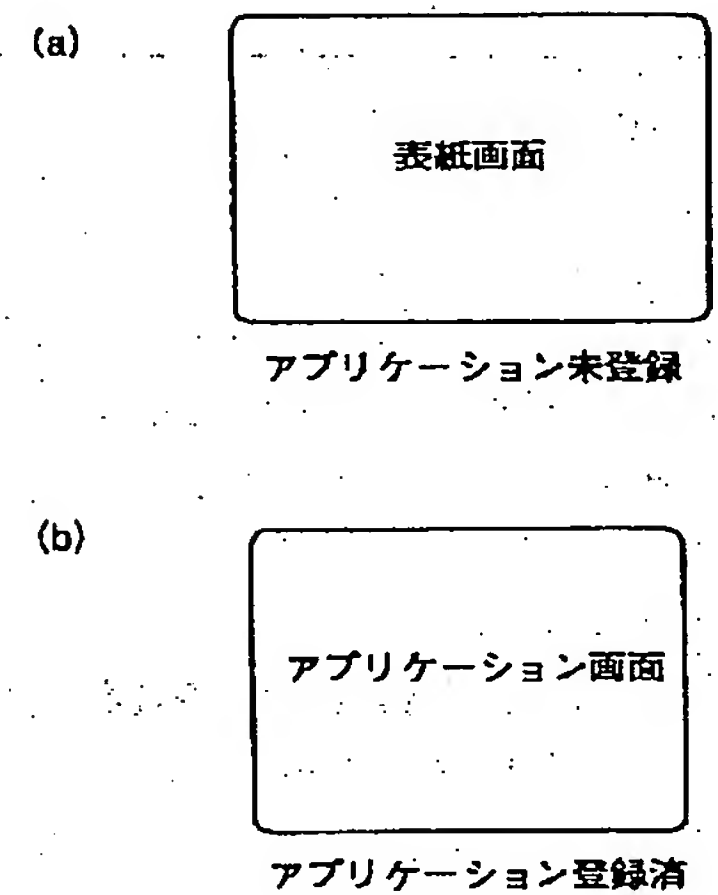
【図 8】 本発明の第 3 の実施例に係るボタン設定処理の動作を示すフローチャート。

【符号の説明】

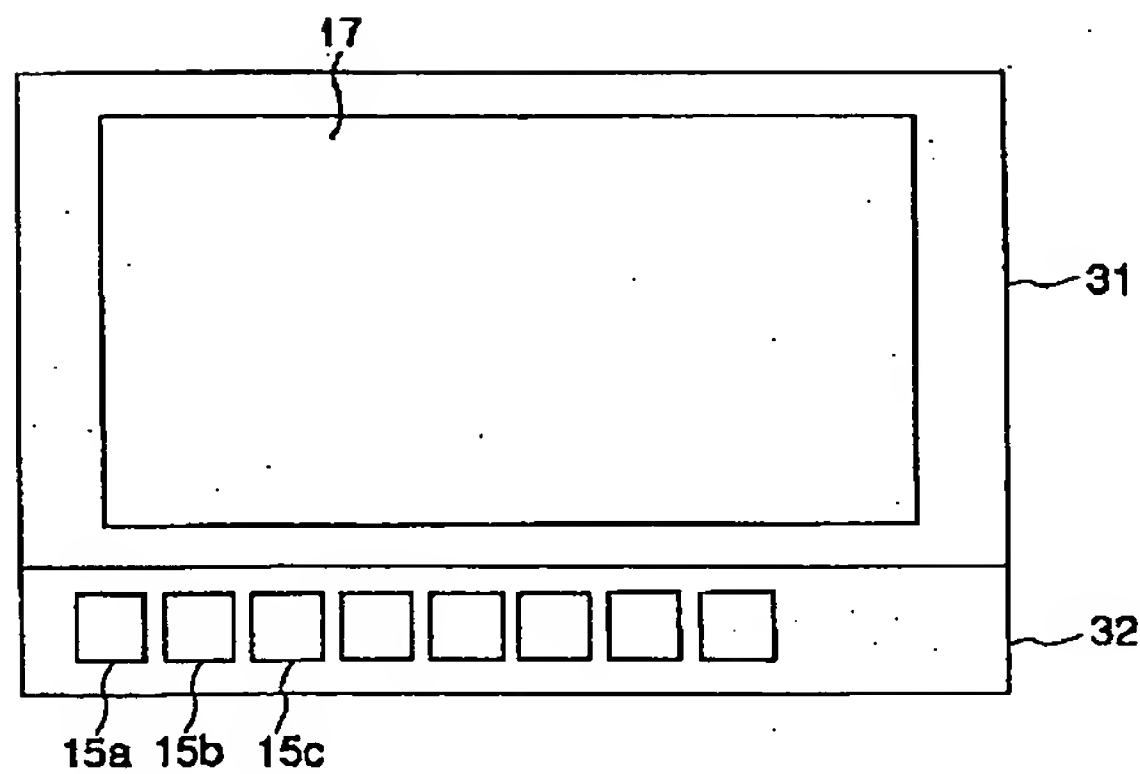
【図 1】



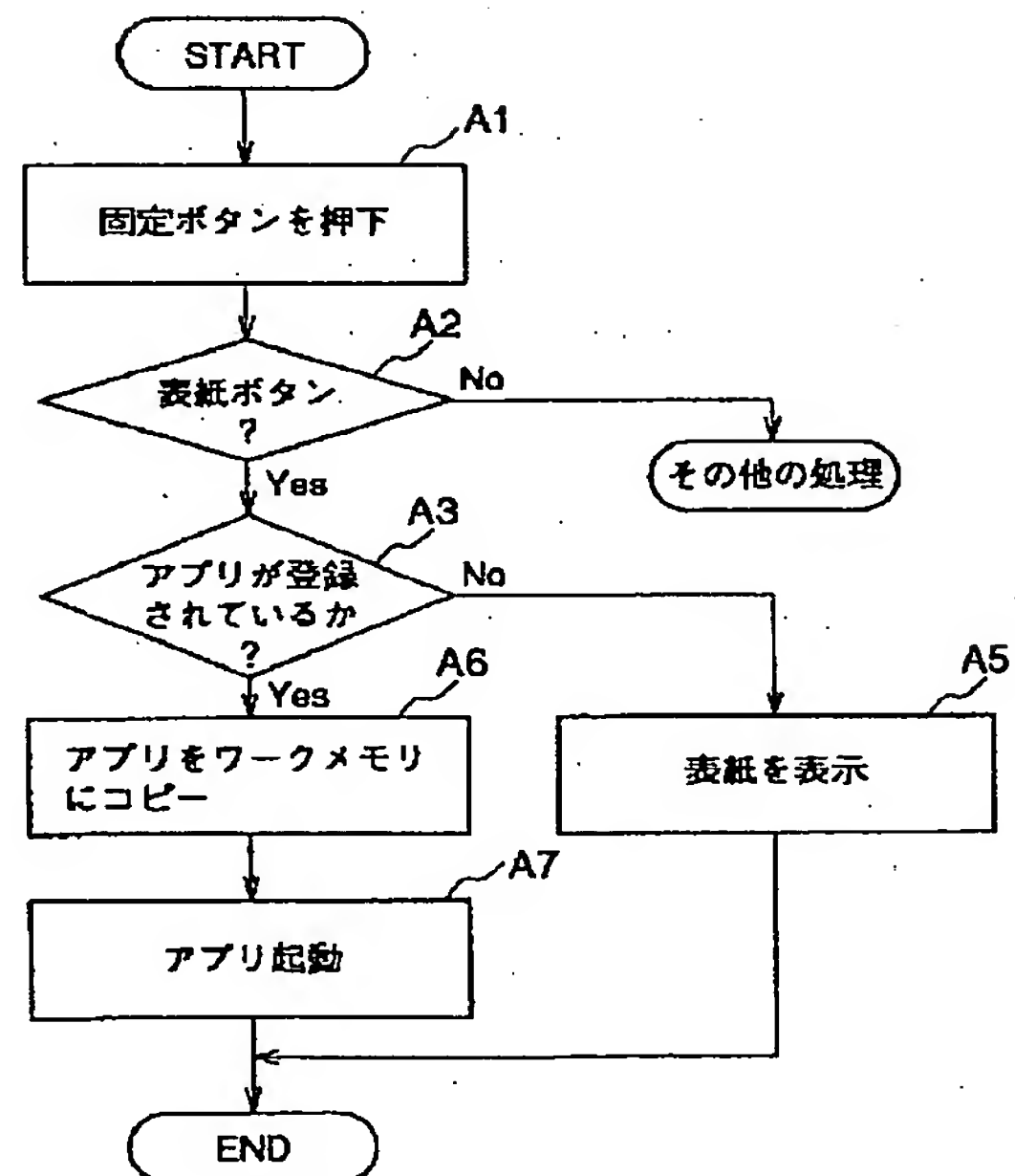
【図 4】



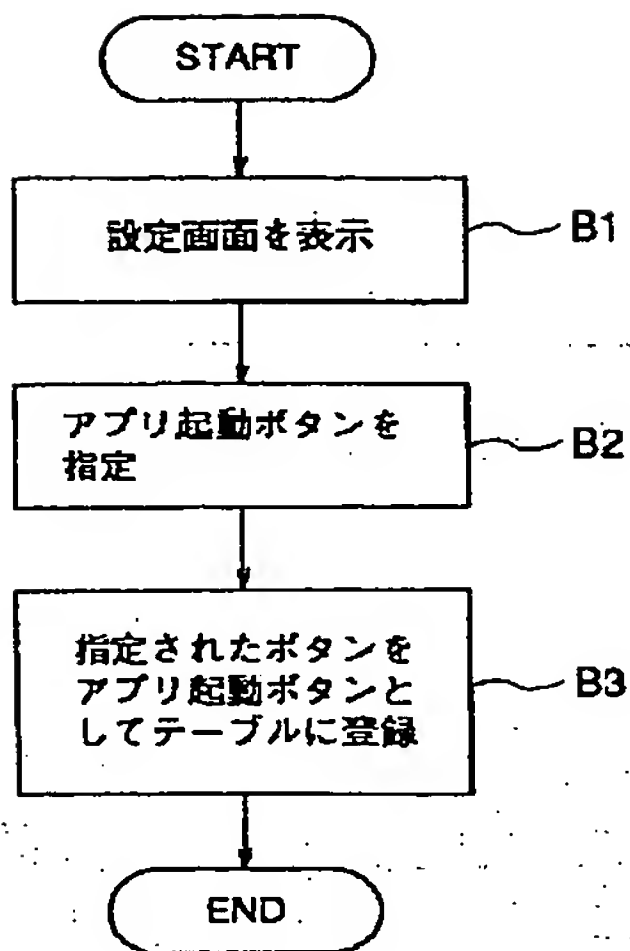
【図 2】



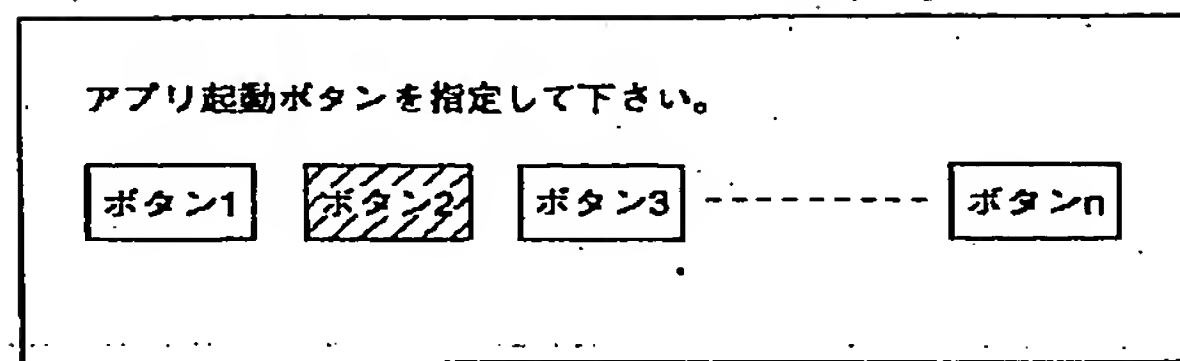
【図 3】



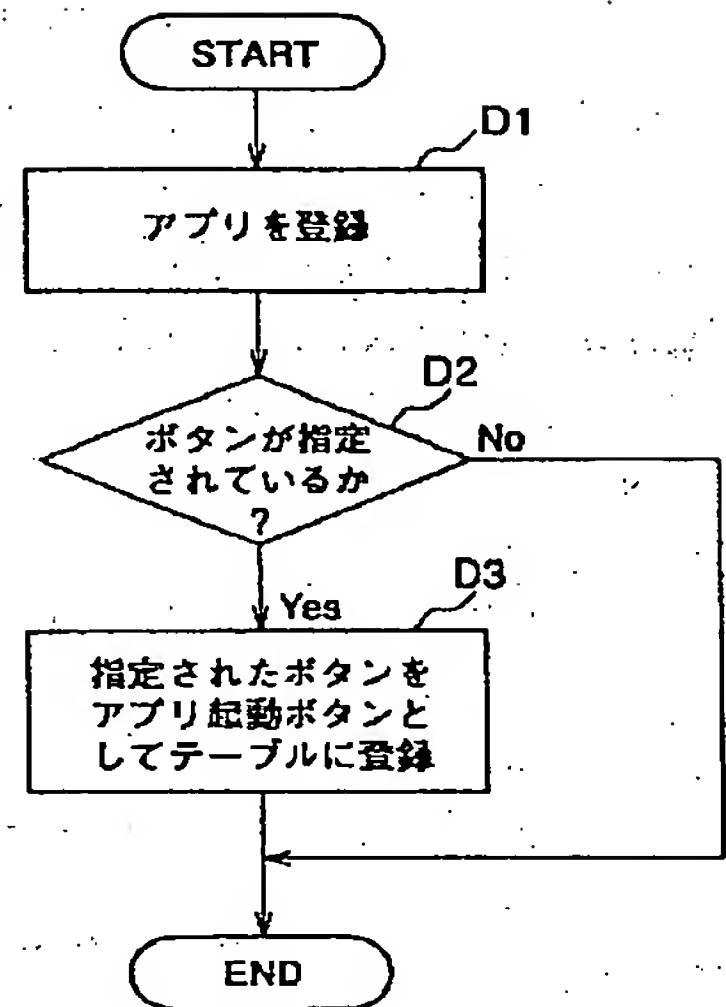
【図 5】



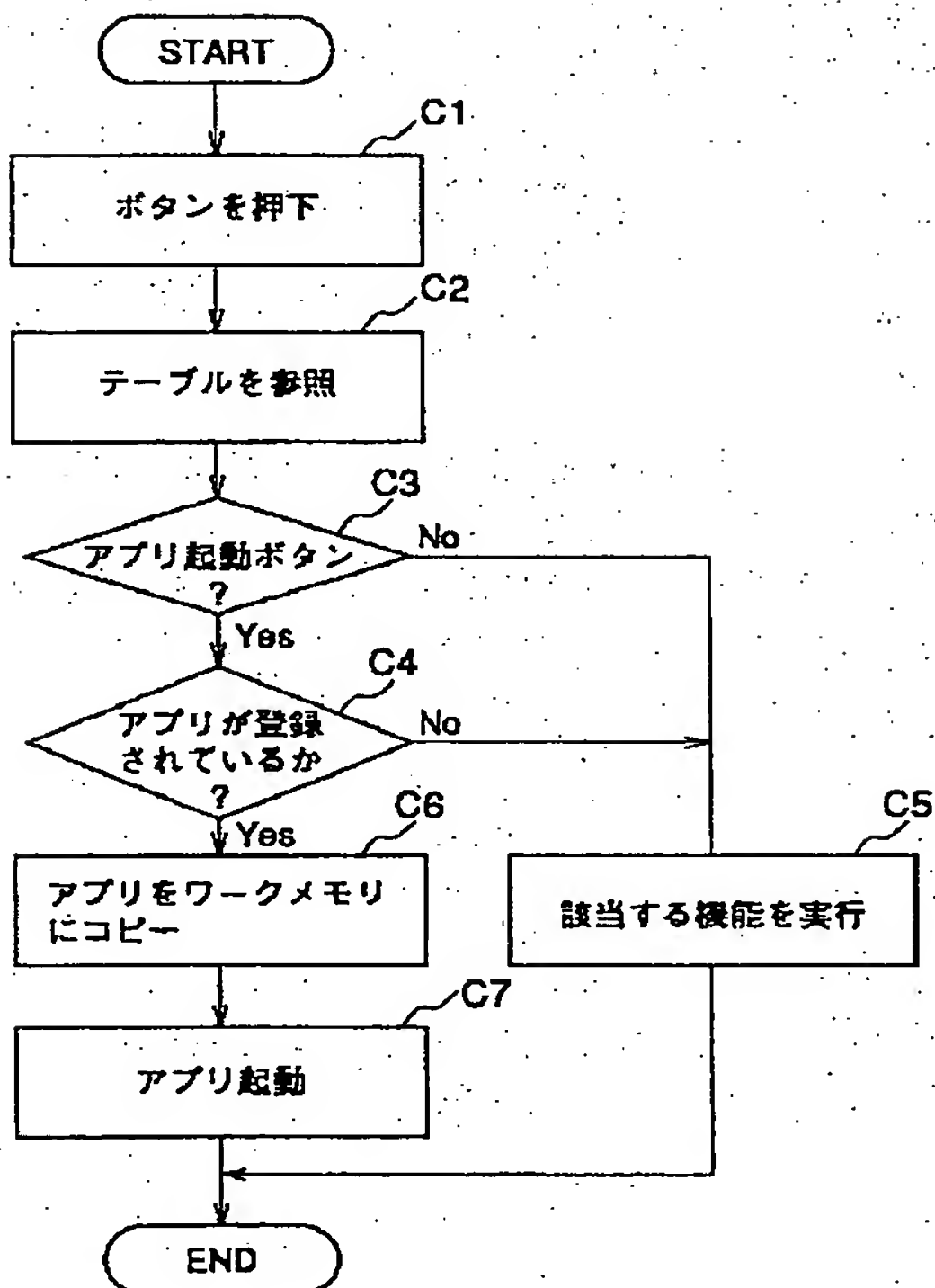
【図 6】



【図 8】



【図 7】



【公報種別】 特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】 第6部門第3区分

【発行日】 平成13年2月9日(2001. 2. 9)

【公開番号】 特開平7-271562

【公開日】 平成7年10月20日(1995. 10. 20)

【年通号数】 公開特許公報7-2716

【出願番号】 特願平6-65139

【国際特許分類第7版】

G06F 9/06 410

【FI】

G06F 9/06 410 S

【手続補正書】

【提出日】 平成12年3月22日(2000. 3. 22)

【手続補正1】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 特許請求の範囲

【補正方法】 変更

【補正内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】 複数の機能を有したデータ処理装置において、

アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、
上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、

上記複数の固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定すべきものを指定する設定画面を表示する表示手段と、
上記表示手段により表示された設定画面に基づいて上記複数の固定ボタンの中から任意に指定された固定ボタンを上記アプリ起動ボタンとして設定するアプリ起動ボタン設定手段と、

上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段と
を具備したことを特徴とするデータ処理装置。

【請求項2】 複数の機能を有したデータ処理装置において、

アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、
上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、

上記複数の固定ボタンの中で上記アプリケーションソフトに対応する機能を起動するものを、上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定するアプリ起動ボタン設定手段と、

上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断

し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段と

を具備したことを特徴とするデータ処理装置。

【請求項3】 上記制御手段は、上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断すると共に、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されているか否かを判断し、登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、一方、未登録であれば上記固定ボタンに対応する上記機能を起動することを特徴とする請求項1または請求項2記載のデータ処理装置。

【請求項4】 複数の機能を有し、これらの機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、各種情報を表示する表示手段とを備えたデータ処理装置のアプリケーションソフト起動方法において、

上記複数の固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定すべきものを指定する設定画面を上記表示手段に表示し、
上記表示手段により表示された設定画面に基づいて上記複数の固定ボタンの中から任意に指定された固定ボタンを上記アプリ起動ボタンとして設定し、

上記アプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動するよう制御することを特徴とするアプリケーションソフト起動方法。

【請求項5】 複数の機能を有し、これらの機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、各種情報を表示する表示手段とを備えたデータ処理装置のアプリケーションソフト起動方法において、

上記複数の固定ボタンの中で上記アプリケーションソフトに対応する機能を起動するものを、上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定し、

上記アプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動するよう制御することを特徴とするアプリケーションソフト起動方法。

【請求項6】 上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御を行うに際しては、上記アプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断すると共に、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されているか否かを判断し、登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、一方、未登録であれば上記固定ボタンに対応する上記機能を起動することを特徴とする請求項4または請求項5記載のアプリケーションソフト起動方法。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正内容】

【0007】

【課題を解決するための手段】本発明のデータ処理装置は、複数の機能を有したデータ処理装置において、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、上記複数の固定ボタンの中から上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定すべきものを指定する設定画面を表示する表示手段と、上記表示手段により表示された設定画面に基づいて上記複数の固定ボタンの中から任意に指定された固定ボタンを上記アプリ起動ボタンとして設定するアプリ起動ボタン設定手段と、上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソ

フトを読み出して起動する制御手段とを具備したものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0008

【補正方法】変更

【補正内容】

【0008】また、本発明のデータ処理装置は、複数の機能を有したデータ処理装置において、アプリケーションソフトを記憶するための記憶手段と、上記各機能をそれぞれ起動するための複数の固定ボタンと、上記複数の固定ボタンの中で上記アプリケーションソフトに対応する機能を起動するものを、上記アプリケーションソフトを起動するためのアプリ起動ボタンとして設定するアプリ起動ボタン設定手段と、上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断し、上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動する制御手段とを具備したものである。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0009

【補正方法】変更

【補正内容】

【0009】さらに、上記制御手段は、上記アプリ起動ボタン設定手段によりアプリ起動ボタンとして設定された固定ボタンが操作されたことを判断すると共に、上記記憶手段に上記アプリケーションソフトが登録されているか否かを判断し、登録済みであれば上記記憶手段から上記アプリケーションソフトを読み出して起動し、一方、未登録であれば上記固定ボタンに対応する上記機能を起動することを特徴とする。